

2012年11月21日発行

## 「第25回ランナーズ賞表彰式」 ご案内



市民ランニングの普及、発展に貢献した人物・団体などを表彰する  
第25回ランナーズ賞（主催：ランナーズ賞選考委員会/運営：アールビーズスポーツ財団）の表彰式を11月30日（金）16：30よりウェスティンホテル東京（恵比寿ガーデンプレイス内）で開催いたします。

### ●ランナーズ賞とは

長年に渡り、市民ランナーの模範的生活を送り、健康であることの喜び、ランニングのすばらしさを多くの人々に伝えるなど、有意義な活動をされている人、団体、その他、有形無形を問わずに表彰するものです。一般公募制とし、毎年、雑誌「ランナーズ」の誌上やインターネット「RUNNET」にて募集。書類による一次審査後、ランナーズ賞選考委員会によって決定されます。

2012  
RUNNERS  
AWARD

### ●第25回ランナーズ賞表彰式のご案内

日時：平成24年11月30日（金）

会場：ウェスティンホテル東京（恵比寿ガーデンプレイス内 地下1階 桜の間）

（Map：<http://www.westin-tokyo.co.jp/access/index.html>）

受付 16:00～

ランナーズ賞表彰式 16:30～

## ● 第25回ランナーズ賞受賞者ご紹介

### 桜井 勝延さん(56)



福島県南相馬市市長。市長一期目に東日本大震災が発生し、以後、地震、津波、原発事故の三重被災にさらされた南相馬市の復興を、ランニングで培った気力と体力で牽引。「福島に強い長距離選手を育てたい」と「野馬追ランニングスポーツ少年団」を立ち上げ、15年近く地元の小中高生にランニングを指導。元祖山の神・今井正人選手をはじめ、幼少から交流のあるマラソンランナーも少なくない。フルマラソンの記録を43歳のとき2時間48分まで縮めたスピードランナーでもある。



### かすみがうらマラソン 兼国際盲人マラソンかすみがうら大会

茨城県土浦市制施行50周年を記念して、1991年第1回大会が開催。「甦れ、霞ヶ浦 水はスポーツの源」をスローガンに、当初から環境問題に取り組んできた。盲人と健常者が同じ時間に、同じコースを走るフルマラソンの先駆けであり、現在は国際視覚障害者スポーツ協会公認の国際盲人大会として併催。『体験する福祉』『ノーマライゼーションの実践』をテーマに、全国から毎年2万5000人規模の参加者を集めている。

### 鏑木 毅さん(44)

2009年4月から公務員を辞してプロ・トレイルランナーとして独立。日本山岳耐久レースや北丹沢12時間山岳耐久レースを始め、国内の名立たるレースを制覇。海外レースにも積極参戦し、2009年には世界最高峰とされる「ウルトラトレイル・デュ・モンブラン」で3位入賞。現在は日本におけるアウトドア・アクティビティ文化の普及と地方自治体の活性化に尽力。今年5月には日本初の100マイルレースとなるUTMBの姉妹レース「ウルトラトレイル・マウントフジ」を開催、成功させた。



## アトミクラブ



1984年に発足し、29年間に渡り、代表の篠原義雄さん（67歳）等が無償で練習会を運営。現在の会員数は450名。年齢は20代から70代までと幅広く、視覚や聴覚に障害を持つ人も積極的に受け入れる。毎週木曜の練習会では、1人で取り組むのが困難なスピードトレーニングを実施。運営を行う関田善作さん（63歳）は「今の形ができたのは、走力や年齢の垣根を越えた仲間と記録を狙って楽しく走りたい、という一心からです」。

### 会田 光一さん(81)

東久留米走友会会長。77歳の時、がんで胃を全摘出するも、「マラソンは胃で走るんじゃない、脚で走るんだ」と、不屈の精神で2年後のつくばマラソンを5時間56分40秒で完走。80歳ではサロマ湖ウルトラマラソン50kmを走り切る。これまでホノルルマラソン25回を含めフルマラソン完走は82回。病に負けず明るく元気に走る姿は周囲に勇気を与え、マラソンに対して真摯に取り組む姿勢は多くのランナーの模範になっている。1931年生まれ。



- 取材に関するお問い合わせ  
ランナーズ賞選考委員会事務局  
(株式会社アールビーズ 社長室内)  
Tel:03-5771-7909 FAX:03-3405-8454  
E-mail: press@runners.co.jp